

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	272500844
法人名	社会福祉法人奥入瀬会
事業所名	グループホーム「たんぽぽ」
所在地 (電話番号)	〒039-2233 青森県上北郡おいらせ町沼端370-1 (電話) 0178-50-1560

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 8月 29日	評価確定日	平成 19年 10月 5日

【情報提供票より】(平成 19年 7月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	330 円	昼食	330 円
	夕食	330 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		990 円	

(4) 利用者の概要(7月 31日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	79 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国民健康保険おいらせ病院・木村歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム内は利用者が作った装飾品できれいに飾られており生き生きとした生活の息吹を感じる。中庭には家庭菜園が栽培されており季節の野菜が植えられている。また居室には利用者の昔馴染みの家具や調度品などが多く飾られており利用者の個性あふれた生活ぶりが窺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で指摘された、玄関まわりやトイレの表示等の改善が見られており、前向きな姿勢がみられている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する振り返りや職員との話し合い等の取り組みはあまり行われていない。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	グループホームの現状報告を主に行っており、意見交換等をしながら取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)
	意見箱の設置はあるが、具体的な苦情は現在の所出て来てはいない。意見や苦情を出しやすいような関係作りや雰囲気作りが求められる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	広報誌を作成し地域へ配布したり、地域のお祭りなどにも参加したりと地域との関わりはみられているが、ホーム独自で発信しているものがあまり無いため地域への浸透度があまり無いように感じられる。ホームをもっと知ってもらえるような取り組みを今後期待したい。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちはその人らしく生活していただくためにその人の生きがいを見つけ尊重し思いやりを持ってケアします」という理念を掲げ、それに向けての努力もしているが地域密着型サービスとしての内容が盛り込まれていない。		地域との交流に関する項目も取り入れ、地域密着サービスも視野に入れた内容を理念に盛り込むことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間できちんと話し合いが行われ、取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	百石祭などの地域行事には参加しており地域との付き合いはあるがホームに来訪者が気軽に訪問できるまでにはいたっていない。またホーム側から地域への発信という具体的な取り組みがない。		ホーム独自の地域交流や地域発信があれば尚一層良いのではないかと。また町内会に入ったりキャラバンメイトになることでも地域との交流につながっていくため、今後の取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>昨年の評価に対しては、トイレの表示を変えたり玄関をより良くしたりするなど改善点は見られている。今回、自己評価をしてからの振り返りや職員との話し合いがあまりされていない。</p>		<p>自己評価に対する職員との対話や意見交換などの取り組みを期待したい。</p>
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>現状報告が主な会議内容になっており、意見交換を行いつつ取り組んでいる。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議を通して連絡を密に取り合い、報告・連絡を取りながら連携を図っている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会などは特に行っていない。</p>		<p>今後積極的な研修への参加や勉強会の開催などを通して必要時活用できるよう期待したい。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止に努めているが、研修会などは特に行っていない。</p>		<p>今後積極的な研修への参加や勉強会の開催などを通し、職員の理解を深めていくことに期待したい。</p>

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に入居者がホーム内に入り生活の雰囲気をつかんでもらい入居に繋げている。また契約に関してもきちんと話し合いを持ち納得してもらっている。		
10	12	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	最低でも月に一度報告している。そのほかにも家族便りの配布、行事等への参加の確認、ケアプランの内容報告などの際にも報告を行っている。		
11	13	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見聴取など行っている。意見箱はあるが使われたことは無い。		ご家族も苦情を直接言いにくいことも考えられる為、苦情委員会などを設け間接的にでも苦情が出やすいような環境を作るなど検討してみてもどうでしょうか。
12	16	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職に対する配慮は十分になされている。家族への連絡も怠ってはいない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人・中堅・リーダーと個別に分けられた研修会を法人内で行っており参加している。またグループホーム協議会で開催している研修会などに参加している。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他事業所のスタッフ同士での交流等の取り組みはされていない。</p>		<p>意見交換の場や交流の場に意欲的に参加し、サービスの質の向上につなげていくことに期待したい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に入所者がホーム内に入り生活の雰囲気をつかみ、グループホームという環境に馴染んでもらえるようにしている。また、入居してからも外食会や行事、なじみのスーパーを利用している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>それぞれの生活のステージの中で、同じ時間を共有しながら、お互いに喜びを分かち合い共に生活を過ごしている。</p>		


外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの個性に合わせた支援を行っている。本人の意向を尊重しながら、玄関掃除やおしぼりたたみな日常生活の中でその人らしい暮らしを提供している。またケアプランにも本人の意向が反映されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回のケース会議を開催し、情報の共有化を図り、利用者本位の計画を作成している。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	体調変化や、入院後など状態に変化があったときには介護計画の見直しがされている。また変更時にはきちんと家族にも報告している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	急な人員不足などのときも他部署との連携により職員補充や、勤務体制の変更を行いながら、生活に必要な支援を提供している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を取り、適切に行われている。月1回の回診と年1回の定期健診を受けている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員、家族が重度化や終末期に向けて話し合っている。急変時マニュアルも作成されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報や記録管理についても、プライバシーの管理を適切に行っている。日々のケアについても職員間で注意し合い、プライバシーの確保に努めている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	突然の散歩の要求や外出などの支援も利用者のペースに合わせて行っている。日常生活の中でその人らしい暮らしを支援しようと努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの日が週に3回あり、利用者も積極的に行い、楽しんでいる。個人の能力に合わせおしぼりたみなど食事を準備する楽しみなどを支援している。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者からの強い要望が無いため、現在は時間や曜日は固定している。入浴日以外の入浴希望があったときはフットバスを行ったりして対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	おしぼりたたみ、玄関掃除、洗濯ものたたみなどの日常生活の中での役割が一人ひとりきちんとあり、趣味活動も充実している。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物支援や、外食会など月に1、2度開催している。散歩などの外出支援も日常的に行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>現状身体拘束をしている利用者は無い。職員にも身体拘束に関する教育は日常業務の中で指導し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>夜間だけ玄関の施錠をしており、日中は開放している。職員が付き添うなどして対応している。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>月に1度職員間で避難訓練を行っている。法人内での避難経路や避難方法の連携もきちんとできている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>法人内の管理栄養士の指導のもとバランスの良い食事がとれている。食事、水分摂取量の管理もできており夜勤者への引継ぎも行われている。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>ノロウイルス対策のためテーブル、椅子などの消毒は徹底している。まな板、包丁なども消毒し食中毒対策を行っている。また家族へも感染症に対してや面会時の制限なども説明し理解を仰いでいる。</p>		

外部 評価 値	自己 評価 値	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	趣味活動で作った装飾品や小物などがホールやカウンターに飾ってあり良い演出になっている。天窓からの太陽光も室内に明るさを取り込んでおり過ごしやすい空間になっている。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が昔から馴染んで使っていた家具などがきれいに配置されており居心地良く過ごせるような雰囲気である。押入れも各部屋にあり私物管理もできている。		

 は、重点項目。